

●はじめに

立高生のみなさん、こんにちは。

振り返れば誠に危なっかしい判断しかしてきていないように思えるので私の事例が参考になるかどうかわかりませんが、高校時代から現在までどのように考えて道を選んできたのか書きたいと思います。

●高校からの進路選択

進路についてはかなり悠長に構えていてなかなか決めることができずにいましたが、幼い頃から飛行機が好きだったこともあり、漠然とそれに関わる方向に進みたいと考えていました。目が悪かったのでパイロットの選択肢はなく、作る方に携われれば良いなと思っていました。立派とは言えない成績でしたので現役の時にはあえなく浪人となりましたが、この一年間は反省の上に立って勉強しなおすとともにいろいろ考えることができました。

作る方にまわるということでは航空工学科や機械工学科を志望するのが順当だと思いますが、私の場合異なる選択となりました。コンピュータの道から入って数値シミュレーションを勉強した結果航空機の設計に携わるようになったという方の記事を読んだのがきっかけだったと記憶しています。数値シミュレーションはコンピュータを使って数値的に模擬実験することです。この記事を見て、こういう道もあるのかと興味深く思うとともに、コンピュータの中に仮想的に世界を作るというのも面白そうだなと思ったのを覚えています。飛行機のシミュレーションということであれば機械工学科が適切かも知れませんが、考えているうちに興味の重心がコンピュータとシミュレーションの基盤となる数理に少し傾き、電通大にあった情報数理工学科を見つけ受験しました。数値シミュレーションに関する研究室にて修士まで過ごし、計算精度の挙動について研究しました。

●就職から現在に至るまで

大学同期はコンピュータ会社、システムインテグレーター、金融系に就職した方たちが多かったのではないかという印象を持っています。私はものづくりにコンピュータを活用することに興味がありましたので重工業を志望し就職しました。単純に大きな機械／構造物が好きだっただけかもしれません。面接でもそんな話をした気がします。船舶、航空宇宙、発電用ボイラや LNG タンクなどのエネルギー・プラント機器、橋梁、水門、圧縮機や分離機などの産業機械、ターボチャージャ、クレーンその他の運搬機器など様々な事業分野がある中、情報システム部門に配属されました。

情報システム部門の役割は様々で時代によっても変化しますが、当初私はスーパーコンピュータの利用環境整備と実際にそれを使用した数値シミュレーションの実施を担当／支援していました。発電用ボイラやターボチャージャなど様々な製品について設計図から3次元の形状データを作り、それを基にスーパーコンピュータを用いて製品の中でどのような流れが発生するか、どのような熱分布となるかなどを計算していました。特定の事業部に属しない本社部門だったので幅広い製品に関わることができ、大変ではありましたが面白かったのを覚えています。

ところで、会社や部門によっては、経験の幅を広げるためにある程度の間隔で別の業務を割り当てるローテーションが行われることもあります。私もそれまで経験のない工場の生産管理システムを担当した時期がありました。量産に近い製品もあれば案件ごとに設計が異なる個別受注の製品もあります。材料の準備や工程などものの作り方が異なるため、その特徴に応じた生産管理が必要となります。数値シミュレーションとは異なる知識が必要となりますが勉強になりました。

印象に残っているのは航空エンジン整備工事を管理するシステムの更新です。システム化にあたってはまず業務を見直して改善を図ることになりますが、部門や担当者によって意見の相違がありますし業務の変化に対する抵抗もあります。最初はそんな状態でも、それぞれの部門のプロフェッショナルを集め、最終的なビジョンを共有して丁寧な議論を重ねれば落としどころは見えてくるものなのだたとコミュニケーションの重要性を実感したプロジェクトとなりました。コストなどの制約のあるなかで実現を先延ばしした部分もありますが、このプロジェクトを一定の形で完成させたことはひとつの成功体験としてその後の仕事の糧になっています。また、当初の想定とは形が違いますが、学生時代に思っていた航空機に関する仕事ができたとすることで感慨深いものがありました。

その他様々な経験をさせてもらい、現在は全社の情報システム投資や各地事業所通信ネットワークの運用・管理をとりまとめています。職位に応じて直接自分が手を出す部分が減ってくるのが少し寂しいですが、いろいろな人材を束ねることでより多くの仕事ができ、またその人材が成長していくのを見るのは楽しい体験です。

仮に上記の私のように業務が変わらなくとも時代によって環境は変化していくため対応していく必要があります。例えば、私が入社したころは、主として事務計算には汎用大型コンピュータ、数値シミュレーションなどの大規模技術計算にはベクトル型スーパーコンピュータで、社内で運用していました。システム開発も一つひとつ手作りで作成していました。その後、20 数年が経ってこれらは主役から外れ、インターネット上に提供される仮想コンピュータの利用や、既成のパッケージやクラウドサービスを組み合わせて使用することが当たり前ようになって使う技術も変化しています。状況を注視し、適宜適切と思う判断を積み重ねて自ら変わっていく必要性を改めて思います。

●最後に

私も高校時代は合唱祭や文化祭など立高祭関連、またクラブ活動（芸術選択は工芸だったのですが、なぜかコーラスをやっていました）に明け暮れていました。これらを通じた高校時代の友人とはいまだによい付き合いをしています。つまずいたり思い悩んだりしたこともありましたが、今となってはよい思い出のひとつです。小さいことでも「乗り越えた」「やり切った」経験を積み重ねることができれば困難にぶつかった時の心の支えになります。高校時代は様々な可能性を試すことのできるよい機会だと思いますので、いろいろ悩んで試して自分が全力で進める方向に最初の一步を踏み出してみればよいのではないのでしょうか。たとえ壁にぶつかってもきっとやり直すことは可能です。

ぜひ勉強（少し反省の念を込めまして）も含め立高生活を楽しんでください。ご活躍を期待します。